

水泳選手 宮畑虎彦

皆さんは、下田に水泳の選手としてオリンピックに出た人がいることを知っていますか。その人の名前は、宮畑虎彦さんといって、家は今のプールの所にあったそうです。

幼い頃はあたたかい父母の愛情の下で育てられ、家の手伝いはしっかりしていたようです。海と山に囲まれた下田で虎彦も海や山に出て遊んだそうです。そして、おぼれかけたことも何回かあったそうです。一度は、舟から水の中に落ちてやっと助けられたこともあったそうです。そんなことで、水がこわくなり、水遊びもほとんどしなくなったそうです。ある夏のこと、虎彦が4年生の時、受け持ちの女先生から、「宮畑君、君は泳げるのかね」と聞かれたそうです。泳げない虎彦は一瞬とまどったものの、とっさに「はい、泳げます」と答えてしまったのです。その後、先生にうそを言ったことをひどく後悔し、「よし、すぐに泳げるようになるう」と決心し、学校が終わると、その日のうちに近くに流れる四万十川へと走りしました。着物を河原に脱いで、腰ぐらい所までつかかり、顔を水につけて水底をけったのです。その瞬間、足が川底からはなれ、一瞬のうちに体が浮いたのです。そして、体が少し前に進んだのです。その時の喜びは虎彦にとって一生忘れられない一コマとなったのです。さらに、虎彦は泳ぎを練習し、しだいに泳ぎも速くなったのです。その頃の友だちが「虎彦はボートと並んで泳ぐ練習をして、ボートより速かったこと、また、下田から上川口まで泳いだ」という話も残っています。その後、虎彦は師範学校まで進み、更に水泳の力を伸ばし、日本一の水泳選手となってオリンピックに出ようと決心しました。

そして、ついに大正一三年、パリオリンピック大会へ水泳選手として日本を代表して出場したのです。

翌年には、日米の水泳大会（ハワイ大会）にも出場しました。その後、中学校の先生や大学の教授となりました。

昭和三年には、オリンピックのオランダ大会へ水泳の監督としても参加しています。虎彦の名前は、学校の玄関前の碑の中に、「スポーツの先人」とはつきりと書かれています。



